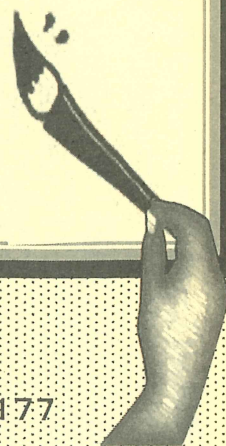


おーぷん



社会福祉法人さざんか会法人広報誌『おーぷん第75号2017冬』

発行: さざんか会法人本部/ 船橋市行田2-8-1/☎047-404-1135

編集: おーぷん編集委員会(けいよう)/船橋市二和西5-10-1/☎047-411-8177

おーぷん75号目次

P1 「今年はどんな年」
さざんか会 理事長 宮代隆治

P3 権利擁護はいま

P4 各事業所秋だより

- ・ゆたか福祉苑
- ・カメラアハウス
- ・のまる
- ・けいよう
- ・とらのこキッズ
- ・さざんかキッズ
- ・DD・のまのまホームズ

P8 北総だより

- ・北総育成園
- ・笹川なすな工房

P11 ランプ発

P12 さざんか会
後援会だより

今年はどうなる

社会福祉法人さざんか会 理事長 宮代 隆治

明けまして、おめでとうござ
います。皆様方には本年も何か
とお世話になります。どうぞ
よろしくお願い申し上げます。

さて、今年はどうなる年になり
ましょうか。世情を見渡せば、そ
の人格を疑わざるを得ないよう
な、米朝の権力者による罵詈雑
言、罵り合い等は度を超えんば
かり。核爆弾を背景に、武力によ
る威嚇合戦は何とも物騒で、背
筋の寒くなる思いです。

相変わらず、世界の各地では
テロが勃発、加えて米国大統領
による大使館のエルサレム移転、
つまりはイスラエルの首都とし
ての事実化は、中東各国はじめ
諸外国からの不評を被り、ひい
てはテロ発生の引き金ともなり
かねません。

足元を見つめれば、昨年の流
行語大賞は「忖度」であり、本
来そう悪い意味で使用されるこ
とではなかったとか。相手の気

持ちをおもんばかり、無用の衝
突を回避することもあったよう
な。ところが、今度の「忖度」は
権力者に媚びてルールを度外視
つまりは融通を効かせ、常識を
破壊する結果を招いているよう
な。



グローバルゼーションの叫ばれる今日、ナショナルリズムがまかり通り、拳句ヘイトクライムに起因する犯罪が起きたり、の物騒な世相となっております。こんなことを想起すると、何とも暗澹たる面持ち、気が滅入りそうです。

とは言え、一条の光を見ることもあり。ノーベル平和賞を受賞したのは核兵器廃絶キャンペーン（ICAN）でした。全世界の核兵器の廃絶を願い、核の抑止力という幻想を否定します。国連による核兵器禁止条約批准にも力を尽くした団体です。残念ながら、世界に唯一の被爆国であるこの国は核の抑止力傘下という立場から、この条約に背を向けたままです。広島、長崎で原爆によりこの間亡くなられた数十万の人々、深く傷付き後遺症を抱え、長い間苦しめられた人々、その血と涙を思うと、この国の対応に言葉を失ってしまいます。

他に明るい話題は…。どうも、明るい話題が少ないようですが、目を転じて、障がい福祉の世界を展望すれば。何より、4月からの障がい福祉サービス報酬

単価の改定から目が離せません。検討チームの議論も進み、1月中には概要が示されるか。国も自治体も厳しい財政状況下、障がい部局と財務部局の攻防も展開されましようが、何とか現在のレベルは維持して頂きたいものです。

11月上旬に、こんなことがありました。場所は永田町の参議院議員会館の講堂です。ここに、全国の障害関係25団体が集まり、国会議員の方々の出席の下、報酬改定要望集会を開催しました。この試みは、初めてのことで、個々に団体が要望を出すよりは、一堂に会し全体で要望を起した方がより効果が期待できるのでは、との思いからです。大勢の議員さん方が出席してくれました。マイクを握った人たちは「一緒に頑張りましょう」と言っはくれたのですが。

今回、統一した要望は「改定率について、前回の改定を下回らない水準を」というもので、ここにも厳しい現状が反映されているようです。

高齢者介護、障がい福祉の分野での人材不足が慢性化しています。何とかこの職業に価値を

付加せんと、国も賃金に対する策を講じてはくれませんが、根本的対策には遠いものと感じています。社会的に高い評価を受け、そこで働く人への身分保障の水準も相当のものであり、例えば一家を構えて安心して暮らせる程度のものであれば、と思うのですが。

ボランティアな精神に積年支えられた仕事は、時代の変遷に翻弄されてしまいます。

とは言え、当法人に勤務する職員各位は障がいのある人と共に在ることに尊い価値と喜びを見出すことのできる、そんな職員集団です。日々、一緒に笑ったり、喜んだり。そして、時には悲しく落ち込んだりも。それでも、手を携え、一緒に歩むことに無上の喜びを見出している人たちです。

どうやら、この事が私にとって一番の明るい話題です。各事業所からそんなホッとするような、思わず微笑んでしまう話題が耳目に届くとき、「捨てたものじゃない現実」を見出し、心が軽くなります。願わくば、今年も一つでも多くのワクワクするお話しが届きますように。

荒井 道貴 施設長

市政功労表彰を受賞

笹川なずな工房

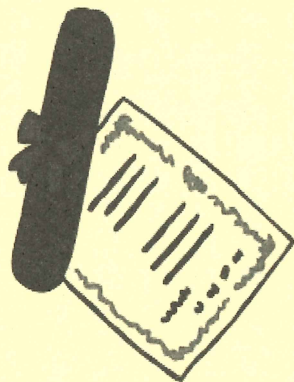
施設長 荒井 道貴 氏が、

平成二十九年度船橋市市政功労表彰（行政功労）を受賞されました。

※市政功労表彰とは

船橋市表彰条例に基づき、市政の振興、公共の福祉増進などに功労のあった人、または、市民の模範となった人を表彰しています。（船橋市HPより）

誠におめでとうございます。



権利擁護はいま

子供の将来を思う毎日

安藤 隆司

〔ゆたか福祉苑保護者〕

以前にもおーぶん64号に書かせていただきましたが、病気は突然やって来ます。

長女麻美子はてんかん発作の障害を持つ身、44歳となった今でもその病と闘い続けておりません。

彼女の人生が数多くの方々に支えられ、その命をつないでいるのも事実です。幼少の頃から、病院と我が家を行き来するだけでは成長はないと思い、障害関係の幼稚園、学校、通所施設をお願いして、できる限り皆様方とのふれ合いの場所へ出してきま

した。その折々にみせる笑顔と喜ぶ表情に親として心安まることもありました。一方で、不意に襲ってくる発作のたびに、私達家族はその対応に終われる日々もしばしばありました。

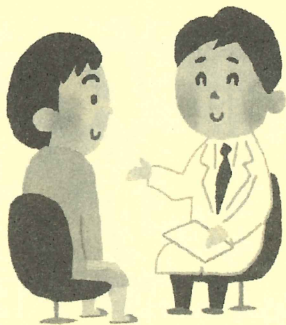
それでも成長に伴い体力、知力を少しずつつながら、いつか新しい治療法と薬が開発され、この病気との決別に期待を抱き生活しています。

しかし現実には厳しいものでした。3年前にそれは思いもよらぬ形でやって来ました。敗血症という感染性の病気になってしまったのです。本人と家族には苦しい3ヶ月程の入院生活乗り越え、ようやく退院を果たしたのですが、追い打ちをかけるように、新たな後遺症に悩む事となりました。右手、右脚が不自由となり通所施設では車椅子生活を余儀なくされたのです。

それから約3年間不自由な生活を強いられ、苦しい日々が続いています。私たち両親も高齢になり、このさき将来、施設やグループホームにお世話になるにしても、発作だけは何としても止めなければとの思いで、永年お世話になってきた主治医に対し、この現状を打破する為に別の治療法、セカンドオピニオンを申し入れました。

紹介状を手にして向かった先は、てんかん専門医で良い医師に出会うことができ、担当医が指示してくれた薬と治療法により、現在の麻美子の体調は少しずつ改善され、良い変化が現れてきています。

今してみれば、早くから視点を変え、セカンドオピニオンをお願いする勇気があればとの反省が、私の胸中に強く残っています。



『セカンドオピニオン』とは今かかっている医師（主治医）以外の医師に求める第2の意見です。

医療は日進月歩で新しい治療法が次々に生まれています。その全てを一人の医師が把握しているとは限りません。

そこで、患者さんにとって最善だと思える治療を患者と主治医との間で判断するために別の医師の意見を聴くこと、それがセカンドオピニオンです。

セカンドオピニオンと医師を変えることを同義に考えていらっしゃる方も多いですが、そうではありません。

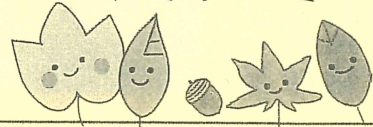
主治医との関係が悪くなることを心配してセカンドオピニオンを言いだせない、という方も多いのですが、基本的には心配する必要はないはずです。主治医と共に治療を選択する”ということがセカンドオピニオンの前提だからです。しっかりとしたセカンドオピニオンを受けることで、自分が選ぶ治療にどのようなメリット・デメリットがあるのかを多角的に知ることが出来ます。

ゆたか福祉苑

〜秋便り〜

すっかり冷え込み、肌寒
い日が増えて来ました。

寒がりな私にとっては、今
年は10月の時点で既に冬
の到来を感じるほど。去年
よりも早くユニクロのヒー
トテックを着用し始めてし
まいました。

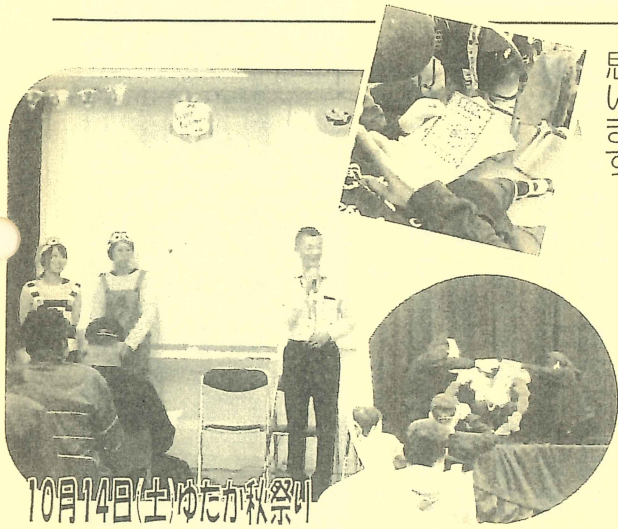


しかし中には北国出身の職員
も居て、「過ごしやすい季節が来
た」と快適そうな表情を見せてい
ます。人それぞれ寒さの感じ方も
異なるものなのだなと思われ、
同時に日々の支援の中でも、こち
らの思い込みや勘違いがご利用
者様に辛い思いをさせてしまう
こともあるのでは?と考えさせ
られました。

ゆたかでは、毎月スローガンを
決めて支援に当たっています。今
月のスローガンは、「大丈夫」で
はなく「大丈夫?」として、ご利用
者様の小さな変化も見逃さず、
きめ細やかな支援を目指してい
きます。

さて、ゆたか福祉苑での秋の
イベントは、一昨年で終了と
なった「ゆたかのタベ」に代わ
って昨年度から始まった「秋祭
り」。土曜開苑日に行われている
為、お祭りの時間は短いものの、
職員の出し物等も変わらず行な
っていますよ!

今年はいよいよ班のご利用者
様によるダンスの発表や新人職
員の出し物、そして班対抗の二人
羽織大会と盛り沢山のプログラ
ムに、午後にはビンゴ大会も。屋
内での実施でしたが、ハロウィン
の飾り付けも気合が入り、楽しい
1日になったのではないかなと
思います。



10月14日(土)ゆたか秋祭り

カメラリアハウス

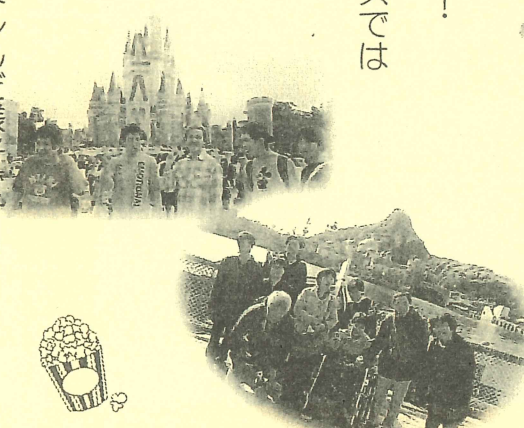
〜秋行事〜

★毎年恒例! デイズニールランド!

秋の行事と言えば、カメラリアハウスでは
毎年恒例のA・B各グループ
東京デイズニールリゾートへの
一日外出がありました。

今年にはAグループが11月1日に
デイズニールシーヘ!、Bグループは
11月2日にデイズニールランドへ!
それぞれ外出しました。

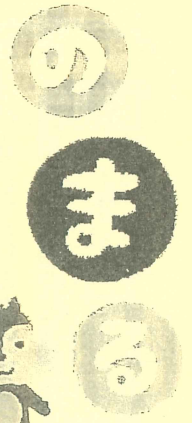
各グループ利用者さん、とっても楽しんだ様子です♪
★C・Dグループ一泊旅行♪



そして、先日11月6、7日にC・
Dグループの一泊旅行がありました!
昨年引き続き千葉県(房総)に
行ってきました!

一日目は、マザー牧場でジנגスカン
を食べ牧場で遊び、小湊のホテル三日
月に一泊し、二日目は鋸山に行きロー
プウェイに乗り絶景を楽しみました。
お天気にも恵まれ皆さん楽しまれました♪



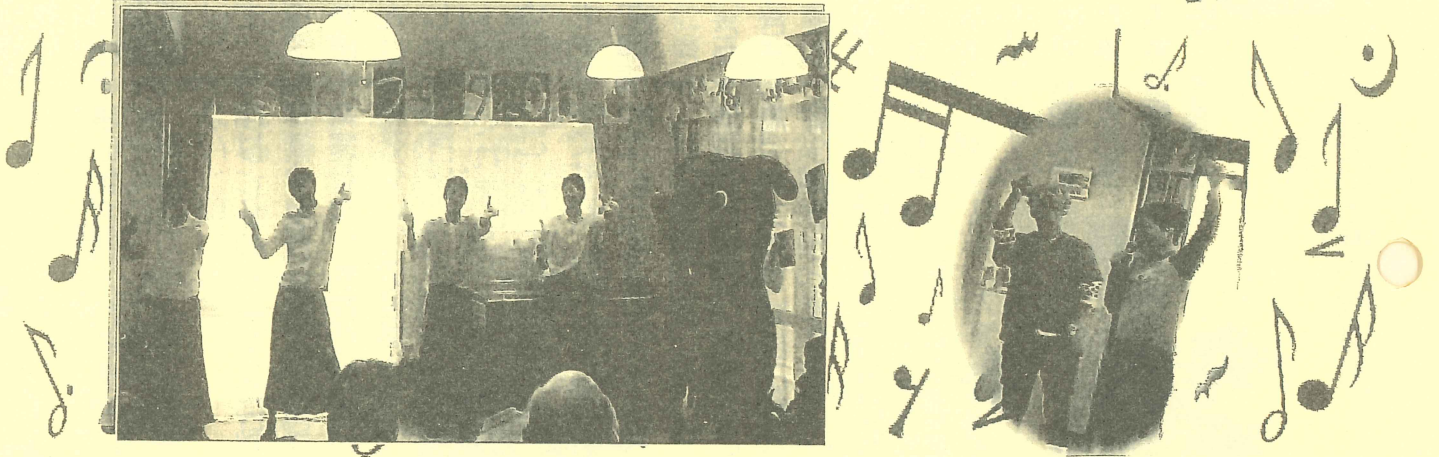


秋のおまつり

今年も雨続きの秋でした。毎年恒例のビッグイベント、のまるん☆フェスタが今年も開催されました。開会宣言を担当されている利用者さんは朝から緊張で力チ力チになっていました。大きな声で宣言することができました。

今回も午前、午後と二部制で構成されており、おなじみのチーバ君がゲストでの出演です！スタッフとダンスを一曲とユニットごとの記念撮影で盛り上がっていました。

その他にも各ユニットでゲームの企画やボランティアさんの踊りやギターによるコンサートで盛り沢山の一日でした。利用者さん、スタッフがみんな集まり楽しい思い出がまたひとつ増えました。



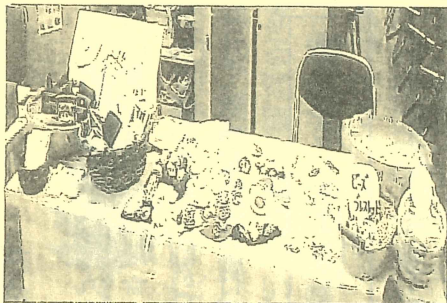
けいようの秋

秋だよりの秋だよりの

『けいよう秋まつり』

十月十四日、雨の中の開催となりましたが、無事終える事ができました。

晴天時用に準備を進めていた為、数日前での雨天時用への変更で全員、前日・当日の準備に走り回る事になりました。大半のスタッフが雨天時を経験した事が無かった為、不安で当日を迎えましたが、イベント会場は早々に満席となり、席が足りない状況でした。また、食品売場やゲームコーナー・各事業所の



けいようの利用者さんが作った物です

フラダンス、この日の為に練習しました



秋祭り、ハロウィンパーティー
皆さんお疲れ様でした

お店も大盛況でした。

特にゲームコーナーは盛り上がっていました。小さいお子さんが、楽しそうに何度もチャレンジしている所を見ると、準備の苦労が嬉しさに変わり、前日までの疲れが、一気に飛んで行く心地良さを感じました。

来年は晴天の中、けいよう秋まつり、開催出来るといいなと思います。

とらのこキッズ



の様子

あっとい間に寒くなり、外に出る事に気合を入れる季節になってきましたね。園庭に出ると砂場の砂の冷たさや、息の白さから益々冬を感じます。



さて、今回はとらのこキッズの秋の様子をお伝えします♪9月13日・15日はからだであそぼ！（運動会）を行ないました。年長さんは山車を引いての登場☆「よいしょ、よいしょ」の掛け声で会場を盛り上げてくれました！玉入れやかっこ、親子競技等、緊張もある中ですが、みんな全力で頑張った一日です!!



10月6日は、園のバスより大きな大型バスに乗り、市原こどもの国（キッズダム）へ親子遠足に行きました。バス内では自己紹介をしたり、音楽に合わせて手遊びをしたりと楽しいひとときを過ごし、キッズダムでは室内外にあるたくさんの遊具に大はしゃぎの子ども達♪お昼はシートを敷いて、ピクニック気分でお弁当を食べました！午後もたくさん遊び、帰りのバスではみんなスヤスヤおやすみタイム。お家の方や保育者、お友達とたくさん遊んだ一日です☆他の園のお友達もいた為、人の多さに少しびびくりしましたが、大きな怪我なく無事に過ごすことが出来ました。保護者の皆様、ご協力ありがとうございました。



これからも寒い日が続きますが、季節

ならではの遊びもみんな楽しんでいきたいと思えます!!

さざんかキッズ



く秋便り

今年の秋は、さざんかキッズが開園して3年目で初めて園庭の柿の木に2つの実がなりました☆ 来年、再来年と少しずつ実が増えていくように、さざんかキッズも一回り、二回りと大きくなっていきますように…☆
さて、今年も秋は行事が盛り沢山でした！ご紹介していきます！

親子遠足 9月15日（金）

今年はずさざんかキッズ全体で幕張イオンの中にあるカンドウへ行ってきました！

カンドウ内ではパイロットやアイス屋さん、宅配や警察：等、たくさんのお仕事をして遊ぶことが出来ました☆頑張ってお仕事を

した後は、カッチンというお金をもらって玩具等のお買い物♪初めての場所や雰囲気ドキドキしながらも親子で楽しく過ごすることが出来ました♡



からだであそぼ！

テーマはトトロ☆今年もからだであそぼ！は3日間に渡り行なわれました♪たくさんの方の前でのサーキットに、緊張している様子の子も達でしたが、精一杯たくましい姿を見せてくれました！最後にもらった大きな金メダルにも負けないうくらい眩しい子ども達の笑顔と成長した姿に、私たち職員もとっても感動しました☆
保護者の皆様、たくさん温かいご声援と拍手をありがとうございました！



ホーム便り

『これからの食事』松戸達昭

DDホームズ入居者さんの平均年齢が約四十五歳になりました。多くの入居者さんが若い頃では考えられなかった様々な体の不調が出てきてもおかしくない年頃になりました。

自分に置き換えて実感していることですが、基礎代謝や体力が落ちるにつれて、日々の食事は“若い頃と同じように”とはいかなくなってきました。

入居者さんの健康を第一に考えると、今までより運動量を確保することは、なかなか難しいことなので、過食や偏食といった入居者さんの食事の摂り方への支援の重要性が増してくると思います。

十一月に入居者さん食事のとり方について、DD・のまのまホームズ両事業所合同研修会にてディスカッションを行いました。様々な意見が飛び交いましたが、入居者さんに健康的に生活を過ごしていただくためには、ある程度の食事制限を設けることは仕方のないことであるとの意見が

多かったです。

しかし、食事のあり方に制限をつけられればご自身で食事の適量を判断することが難しい方は、不満に感じると思います。世話人としては、入居者さんご本人の気持ちも優先させたい気持ちもあるし、健康にも気をつかわなくてはならない、大変迷いが生じるどころです。言うまでもなく、食事とは人間にとって必要不可欠なこと、医学的に言えば、健康維持や栄養補給の為ですが、一方で大事な人生の楽しみ、娯楽とも言うのもいいと思います。

私の周りには、食べることを非常に楽しみにされている入居者さんがたくさんいらっしゃいます。もし入居者さんに健康診断等で何らかの異常が見つかりドクターから指示があれば、食事制限も必要と思いますが、体の不調がないのに世話人が、将来の危険を察知して、入居者さんの楽しみを制限する必要があるのかと問われると慎重に考えなければならぬと思います。

私たち世話人が、障害をお持ちの方は、常に規則正しく真面目穏やかに、落ち着いた様子で生活しなければならぬと思っている

のか？決してそうではありませぬ。

私もそうですが、おーぷんをご覧になっているみなさん、ご自身の生活を振り返って“不規則”や“不摂生”に言葉に当てはまることをされたことがありませんか？

時々なら誰でもあることだと思います。それでも、みなさん何となくそれを調整しながら生活しているのだと思います。健康第一と言っても世話人が入居者さんの食生活を管理し過ぎるとホームでの生活が窮屈なものになってしまいます。

グループホームの生活は、少数なので、個々の趣向や状況にあった対応がしやすいことが強みだと思えます。入居者さんの気持ちと健康のバランスを見極めながら食生活で支援に当ることを心がけていきます。

事業所として、世話人の食に対する知識も高めていく必要性を感じ、講師を招き食に特化した形での研修会も予定しております。

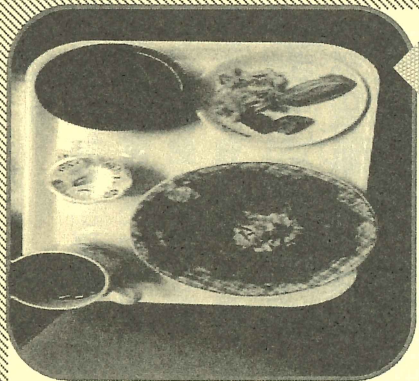
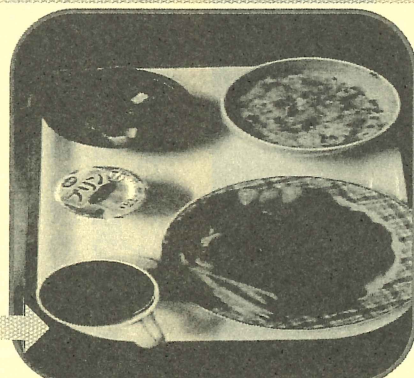


☆のまのまホームズもDDホームズ同様にホームでの食事のあり方について、再検討を始めています。

まずは、日々の献立の記録を徹底していくことを事業所で確認しました。

ということ、今回は、ジャント二オホームのある日の献立を紹介致します。

ミートボールのせ和風パスタ
ポテトサラダ・プリン・みそ汁



ちらし寿司・海鮮五目炒め
具たくさんみそ汁・プリン

北総の里だより

「長寿を祝う会」開催

実行委員長

北総育成園

高橋 洋平

去る10月25日、秋の一日外出行事で銚子・太陽の里に皆で出かけました。この行事では、60歳以上の利用者の方を対象に「長寿を祝う会」を企画しました。長寿のお祝いの対象となる利用者は24名。高齢となり以前と比べ歩くことや食べることに不如意を抱えるようになった方も多くいますが、それでも「働くこと生きること」の心意気は未だ現役の皆さん。それぞれの作業班で自分ができる事に精一杯取り組んでおられます。そんな姿を敬い皆でお祝いしようと、実行委員を中心に準備を進めてきました。

当日は生憎の雨模様となりましたが、銚子の屏風ヶ浦の絶景を車窓から見ながら犬吠崎にある太陽の里へ。総勢106名が一堂に会し「長寿を祝う会」を開催。名前を呼ばれると担任のエスコートのもと壇上へ。お祝いの品は手芸介護班手作りのちゃんちやんこ。還暦(60歳)は赤、緑寿(65歳)は緑、古希(70歳)は紺、喜寿(77歳)は黄、傘寿(80歳)は紫色。背中には武田菱の家紋入りの北総オリジナルちゃんちやんこ。ちゃんちやんこを着た皆の顔はとても誇らしげでした。園長のお祝いの言葉と記念品贈呈の後、北総で生きてきた歴史を振り返るスライド上映。今は

車椅子生活となったMさんやKさんが、運動会で走っている写真、今は亡き父や母、仲間と笑顔で写る写真…。「人に歴史あり」と言いますが、親元を離れ心細く不安な気持ちをごらえながら、一生懸命生きてきたその姿はとても尊いものです。普段から武井園長より「記録は大切に」と教えを受けていますが、今回、一人ひとりの写真を用意するにあたり改めてその意味を実感しました。

スライド上映の後には美味しい食事とお楽しみクラス対抗力ラオケ大会で盛り上がりました。そして最後は旅回りの劇団による演劇観覧。迫力ある刀での立会いや、涙ありの人情劇に利用者も大喜び。決闘シーンでのYさんの掛け声「ケンカスナヨー」には皆で笑ってしまいました。

販売の機会が多く一年の内でも一番忙しい10月下旬の行事となりましたが、日々の「働くこと

生きること」の中にほっと一息の外出行事。今回は「長寿を祝う会」という事で、高齢となった利用者の労を労うと共に、それぞれの生きてきた証を写真で振り返ることで、職員も改めてこの人たちに謙虚に寄り添う気持ちを新たにできました。



十一月二十一日(火)

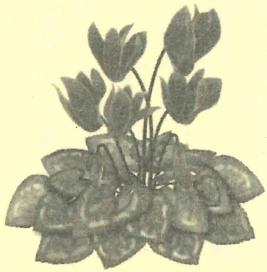
船橋市 松戸市長さんに 園芸班
シクラメン・紙芸班 陶芸班の
干支人形をお届けしました。

今年も北総冬の風物詩、園芸班のシクラメン・紙芸班和紙干支人形・陶芸班干支人形が出来上がり、早速船橋市長さんにお届けに上がりました。利用者代表は、福田克三さん(木工班)・清水康雄さん(園芸班)・瀧波和衛さん(紙芸班)、福田さんは藤代市長さんの時代から毎年2回その役目を担ってくれています。その柔らかい物腰は、その場の皆をすくりに和ませてくれます。清水さんも園芸班代表で何度も市長を訪問しています。瀧波さんは今回初めての訪問で、優しい市長さんのお迎えに笑顔で自己紹介と挨拶をすることができました。職員は、武井園長・白樫・鈴木支援員(園芸班)です。障害福祉課の方・秘書課の方が出迎えて下さいました。

午後1時半市長応接室に、色とりどり5鉢のシクラメンと紙芸班和紙干支人形・陶芸班干支人形セットをテーブルに並べてお待ちしていると、松戸市長さんが笑顔で入ってこられました。園長が「今年も市長にお届けすることを目標に、利用者職員ともに頑張ってきました。」と説明すると大変喜んで頂き、高齢の方・障害の重い方が増える中これだけの立派な製品を作っていることは素晴らしい、これからも皆さん健康に気を付けて頑張ってくださいと温かく優しい言葉をかけて下さいました。これからも市長さんにお届けすることを励みに、北総の里「働くこと生きること」の実践を継続していきます。お忙しい中時間を取っていただきまして誠にありがとうございました。

【北総育成園

副園長 白樫 久子



笹川なずな工房だより

支援課長 羽生 真弓

今年四月、笹川なずな工房は十六年目を迎えました。笹川の地で、焼きたてのパンの製造・販売・地元の果実を使ったジャムや加工品作りに、利用者さん・職員・保護者の皆さんの大きなバックアップを頂き、「おいしいパンがあるよー」と足を運んで頂けるよう、毎日の作業に精を出しています。

製造・納品・販売と、その作業に追われる中、利用者さん1人1人の頑張りがとも現れています。出来るか?これでもいいのか?わからなくても、まずやってみようという取り組みの歩みを基本に、個々の出来る事や得意分野に工程を細分化する事で更に力を付け、総合力として自信につながりました。

それが、顕著に見られるのが秋の各市町で行われるイベント販売準備となります。九月の最終日曜日(十一月の最終日曜日)まで続くイベント販売は、多い時には、土曜日、日曜日で三会場分の準備となります。中でも十一月三日に時を同じくして開催される地元、東庄ふれあい祭りと山田ふれあい祭りは、二会場販売するパンの数量は数え切れなく年間通して一番忙しい日!と位置付けられています。作っても作っても、沢山袋入れしても、どれだけ運び込んでの?



と思っても、現地で販売している職員からは、「パン出来たらどんどん持って来てください」の電話が入ります。この日は一日中この繰り返しで、工房内は活気いっぱい声が響いています。

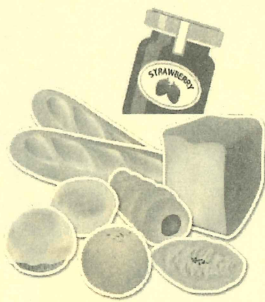


「よーし 頑張るぞ！」とその日のイベントに向ける声かけの大切さ、出来た喜び、売れる楽しさ！をたくさん味わえるように精いっぱい頑張ろう。そんな風にありたいと思います。会場の雰囲気を感じ、作り手や販売してくれる保護者の皆さん、ボランティアさんの笑顔いっぱい弾んだ声を聞くのも良い刺激

になり、工房へ戻ってきた利用者さんは口々に、「すごいよ。一杯売れてるよ」とみんなに伝えてくれます。そこからまた、作業のギアが上がるのです。毎日、通常の作業に励み、二か月に及ぶ週末のイベント販売の準備に弱音を吐くことなく、むしろ意気揚々と作業に励むみんなに敬服です。

この日、この時に照準を合せ鼻息荒く向かってでも簡単に成果が出ることはない事。日々の積み重ねがあつて成し得る大量生産。時間に追われながらも間に合わせられる持続力と集中力。パートごとに担当を分け任せられ培われた各自の自信。自分の仕事の位置付けをきちんと分け、やることにはっきりしている事の必要性と大切さ。細分化して工程は増えても皆が、そこに入ればその工程が当たり前になるので、その仕事は自ずと〇〇さんの仕事となります。利用者さんの頑張る姿。職員のたくましいやる気と頑張り。そんな力の結集がこの秋のイベント販売での売り上げが昨年を大きく上回っただけではない成果となりました。

そして、九月に千葉駅ビルにオープンした東急ハンズ千葉店さんから、なずな工房のジャムを販売したいとお話を頂き、千葉のいいものコーナーに置かれました。又、小見川東急ゴルフさんからは、売店にてジャムを地元のお土産品として扱わせてはもらえないか？とお話を頂いています。秋の大きなイベント販売を終え、新規に取り扱いたいとのありがたい言葉を頂き、その準備に取り掛かりました。また、十二月十八日からは歳末感謝セールを開催し今年を締めくくりたいと思います。年が明けると東庄は、いちご狩りのシーズンが始まります。なずな工房自慢のアイベリー莓ジャムの製造、そのジャムを使ったマフィンやクッキー、焼菓子とイチゴやさんへ納める品物作りの繁忙期を迎えます。



忙しい作業が続く事は大変ですが、私にはどうしても忘れられない言葉があり、ある販売に同行してくれた利用者さんから「あんまり売れなかった。暇で大変だね。」と言われた事。あれから十年になります。忙しい時こそ、生き生きとした表情で作業を進める利用者さん達がいること。その先には目指す就労へと導きたい、その礎にまた一つ新たな景色を見たいという思いを胸に、一丸となって進んでいきたいと思えます。

ランプ発

新年明けましておめでとうございませう。

いつも私の拙い文章をご拝読頂きまして、厚く御礼を申し上げます。

さて、新年早々ではございますが、今回は皆様にお伝えしておかなければいけないことがございます。それは、先日船橋市指導監査課主催の「集団指導」という船橋市がランプのようなサービスを実施している事業所を集め、指導するという会合がありました。その中で、平成30年度の「行動援護事業」と「同行援護事業」について、事業所としては事業を縮小しなければならぬ事態となりましたので、お知らせ致します。実は、現在まで経過措置という形でこの2事業は、ヘルパー資格を取得していれば各々のサービスに入る事が可能だったのですが、平成30年4月からはサービ

スに入るヘルパーさん全てが、「行動援護従事者養成研修」または、「強度行動障害支援者養成研修」を受講しなければならなくなりました。また同行援護についても、「同行援護従業者養成研修（一般課程）」を受講しなければなりません。当事業所スタッフ6名全員は、いずれもすでに受講し、資格を取得していますので、サービスに入ることはできますが、現在ランプに登録しているヘルパーさんは、当事業所から時間とお金の補償をすることが難しく、資格がない状態です。

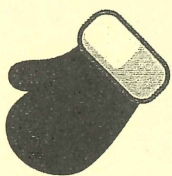
よって、今後は、登録ヘルパーさんが行動援護事業及び、同行援護事業に入ることができなくなるため、現在、資格を取得しているスタッフ6名のみで実施していきます。かなりご不便をお掛けすることになってしまいますが、何卒ご理解の程よろしくお願い申し上げます。

さて、話は変わりますが、平成25年から公用車でのサービス「福祉有償運送事業」を始めて3年が経ちました。ご利用して頂くことも多くなり、サービス利用時には、移動は必ず車で、という方も増えて参りました。基本的に他の事業（移動支援事業など）との併用をお願いしております。現在月平均で12名ほどの方がご利用頂き、大変有難く思っております。ご利用者の方々は、車に乗ることに対しては抵抗されることなく、スムーズに乗車されています。

時々、出掛けた先で、ご本人様のご意向と違っていてなかなか降りて頂けないということがありますが、それでも皆さん楽しんで出掛けて頂いております。まだ利用されていない方々は、まずは事前にランプでの登録が必要となりますが是非、「ご利用下さい」。現在は、運転できるスタッフが男性2名、女性1名となっております、運行可能な車は、2台となっております。1台は、車椅子の方も乗

車できるタイプとなっております。料金については、距離数での換算となります。もし、ご興味がありましたら、ご活用頂ければと存じます。分からない事、詳細については、遠慮なく当事業所までお尋ね下さい。

最後になりますが、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。（山田）



後援会だより

後援会主催の

講演会報告

のまる：泉一成

平成29年11月9日(木)さざんかキッズ、14日(火)とらのこキッズを会場にして、時間は、いずれも11時から12時30分まで講師は、千葉県発達障害者支援センター副センター長の田熊立さんを講師にお招きし開催しました。

今回講演会を開催するに際し事前のさざんか、とらのこにおいてアンケート調査を行い、その質問にお答えする手法の講演会にしました。田熊さんからは、このアンケートから子どもが大きくなったとき、自分の特性とうまいこと付き合っている、できることは自信をもってできる、できないことは周りと相談して困らないようにすればよい、時には別のやり方をす

ればよい、「自分なりの解決手法がある」という明るい見通しを持ってほしい。そのために、まず、大人が子どもの特性を知ることが大切です。講演会の冒頭そのように説明されていました。

田熊さんは困っている親にいつも具体的にわかりやすく説明します。そのスタンスは、私が児童福祉施設「桐友学園」(現・福祉型児童施設・柏市大津ケ丘)に勤務していたころと変わっていません。子どもとの関わりはスモールステップでいい。やさしく心に響く言葉に会場からは「あっそつだよね」とうなずく姿が見られました。

誌上をお借りし、田熊さんに心より御礼申し上げます。

■事務局から

平成30年1月23日(火)後援会評議員会が行われます。後援会の活動にご意見をお寄せください。

ライフサポートファイル

ほほえみ はじまる

船橋市は、子どもの成長記録とより良い支援のためにライフサポートファイルを始めます。

船橋市の説明によれば、障害のあるお子さんや特別な配慮を必要とするお子さんたちが、乳幼児期から成人期までのそれぞれのライフステージで、途切れることなく一貫して適切な支援を受けられるようにお子さんの成長歴や受けてきた支援内容などをライフステージごとに記録・管理できるファイルです。

その特長は、

- 1 分かりやすく記録・整理できること
 - 2 必要な情報を伝える助けになること
 - 3 保護者と支援機関との適切な支援に向けた連携がしやすくなること
- などが挙げられます。

制度はできたが「どう運用・活用するのか」といった声もあるようです。1冊のサポートファイルをライフステージごとに引き継いでいくことで、本人の特性を関係者で共有し、その子が地域で暮らし続けられることを、地域で支えていくことができます。ふなばしの自慢がまた一つ増えました。

